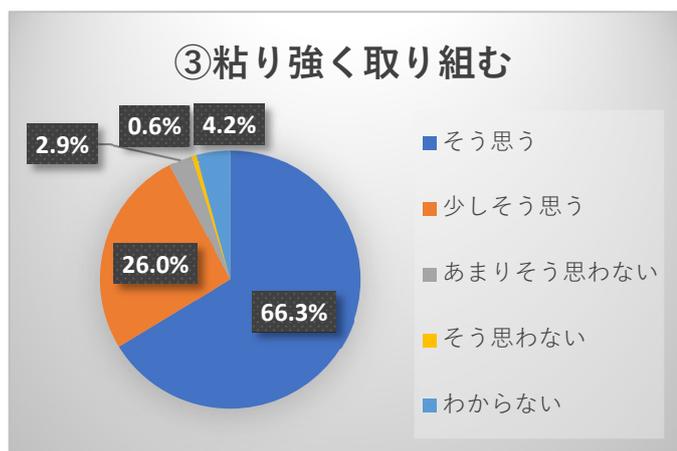
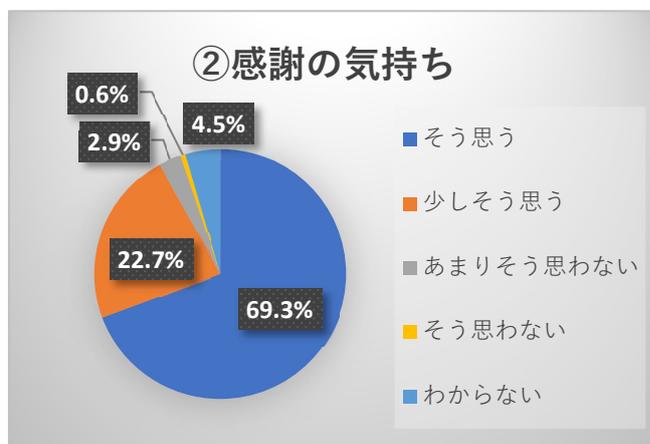
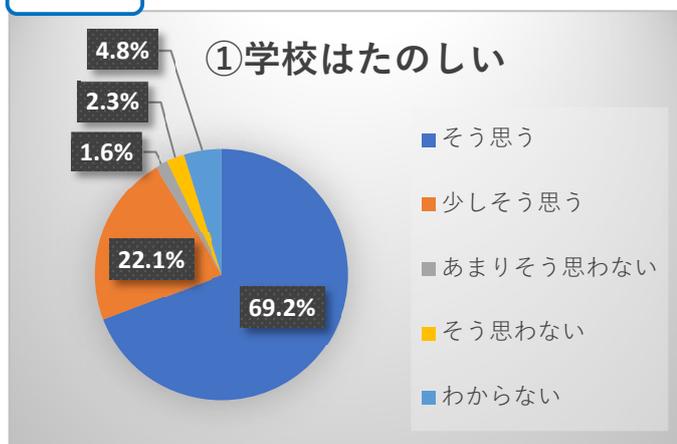


【児童アンケート】chromebookでの実施（308人回答）

今回のアンケート結果を見ると、多くの項目で肯定的な回答が8～9割を超えており、児童が学校生活を前向きに受け止め、安心して過ごしていることが分かる。まず、学校生活の基盤となる「学校は楽しい」という項目では9割以上が肯定しており、児童同士や教職員との信頼関係が良好に保たれていることがうかがえる。特に、友だちと協力して行事に取り組む姿勢や、周囲の人に感謝を伝える態度、相手の気持ちを考えて助け合う行動など、他者を大切にする姿勢が非常に高い割合で示されており、本校の大きな強みとなっている。

学習面では、クロームブックの活用が高い割合で定着しており、授業の分かりやすさや学ぶ楽しさについても良好な結果が得られた。一方で、読書習慣については肯定的な回答が6割程度にとどまり、読書に積極的とはいえない状況が見られる。学校全体で読書活動を大切にし、子どもたちが本に親しむ機会を広げていきたいと考えている。

参考



【保護者アンケート】LINEでの実施（家庭数227件中 246件回答 92%）

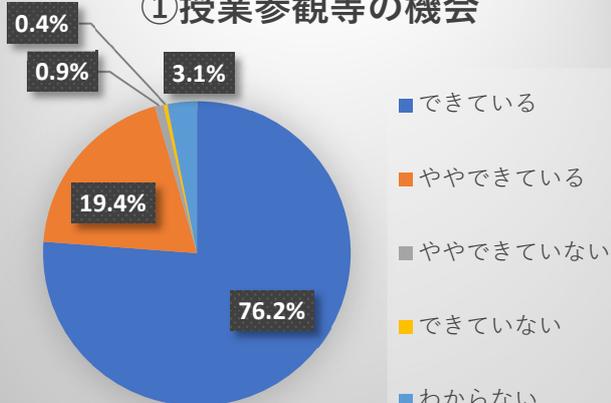
今回のアンケート結果から、学校生活や児童の人間関係については概ね良好だと受け止められており、「学校が楽しい」「思いやりが育っている」といった項目で「できている」「ややできている」という肯定的な回答が多く（楽しい：91.6%、思いやり：87.7%）見られた。学校運営面では、「授業参観や個人面談等の機会を適切に設けている」（95%）、「子どもたちが意欲的に活動できるように学校行事等を適切に計画し実施している」（90%）について、よい評価をいただいた。一方で、教職員の取り組みに関する項目では肯定的な評価が一定数あるものの、「わからない」と答えた保護者が多い点も特徴的であった。今後は、学校の取組をより分かりやすく伝える工夫を進め、家庭との情報共有を強化していくことが求められる。

学習面では、「自分から進んで学習している（68.7%）」「自分で考え判断する力が育っている（78%）」といった項目で肯定的回答がやや低く、またクロームブック活用についても保護者の実感としては控えめな結果（73.1%）となった。生活習慣や安全意識に関する項目でも改善の余地が見られ、学校と家庭が連携して支援していく必要性が明らかになった。

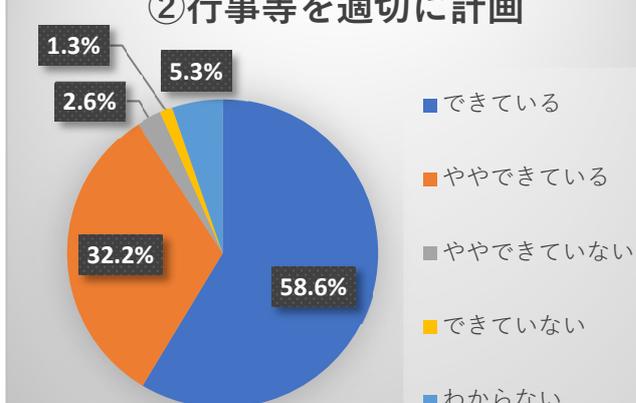
今後は、児童の主体性を育てる学習活動をさらに充実させるとともに、クロームブックを「学びを深める道具」としてより効果的に活用できるよう、工夫を重ねていくことが重要である。また、これらの取組の様子を保護者にも分かりやすく伝え、学校と家庭が同じ方向を向いて児童の成長を支えていけるよう、情報発信にも努めていきたい。

参考

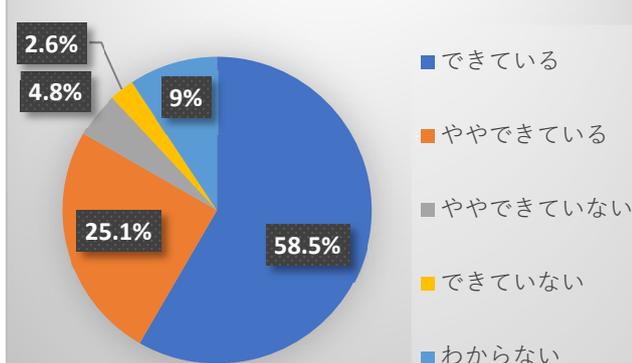
① 授業参観等の機会



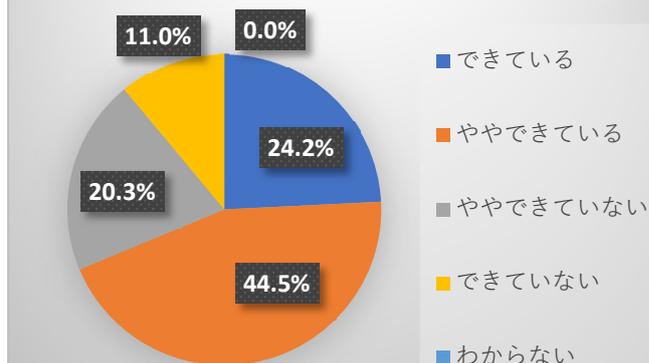
② 行事等を適切に計画



③ 分かりやすい授業



⑤ 進んで学習する



【教職員アンケート】LINEでの実施

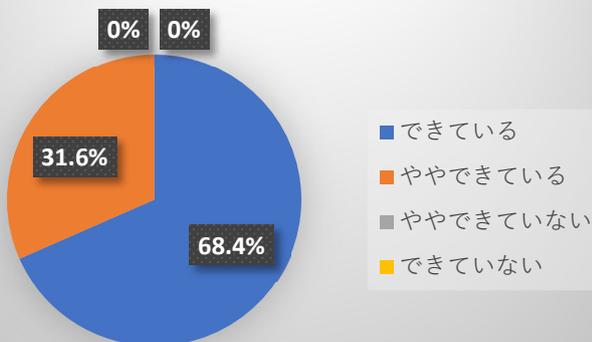
全体的に肯定的な回答が多く、日々の教育活動や校内の取組に対して前向きな評価が得られ、教職員全員が学校運営に携わろうとする意識の高さを感じられる。「学校教育目標の達成を意識して教育活動に取り組む」、「思いやりのある児童の育成に努める」、「児童の特性を的確に把握し生かし、個に応じた指導を追求する」、「家庭・地域の理解と協力を得た学校運営を行っている」、「報告・連絡・相談を密にすることにより意思の疎通を深める」において、「できている」「ややできている」が100%となっており、教職員が共通の目標をもって学校運営に取り組んでいることの表れだと感じる。

一方で、読書指導においては「ややできていない」という自己評価が一定数(13.2%)見られ、読書に対する習慣化の指導に課題がある。

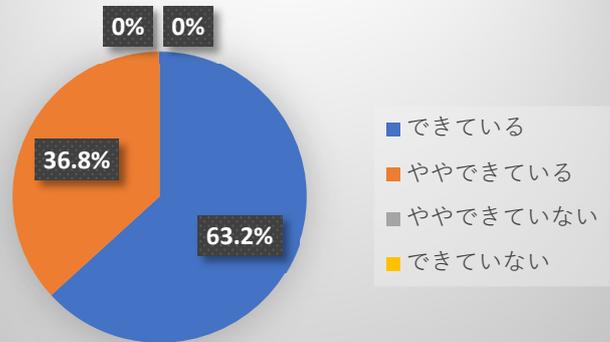
今後の課題としては、「ICTの有効活用」と「読書活動の推進」が挙げられる。ICTについては、校内研究を軸として、機器を使うだけでなく、学習効果を高めるための効果的な活用方法を職員間で共有し、実践例を蓄積していくことが必要だと考える。また、読書活動では、児童の読書習慣を育てるために、教員の指導工夫や成功事例を共有し、学校全体で取組を強化していきたい。

参考

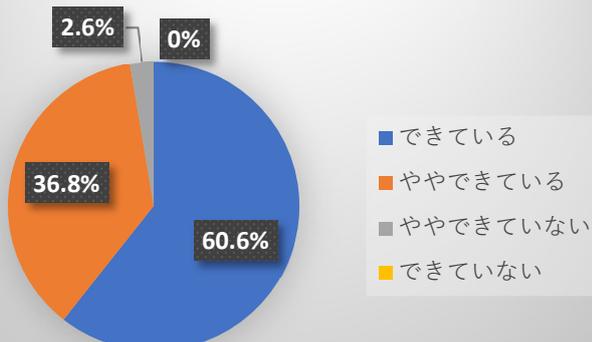
① 報連相を密にした意思疎通



② 思いやりのある児童育成



③ ICTの有効活用



④ 読書の励行

